

第1学年 1・2組書道選択者(27名) 書道I学習指導案 平成27年12月15日(火)第4校時 場所 書道室(2号館1階) 指導者 下田 章平				
単元目標	<p>○墨色と表現の関係に関心をもち、表現を高めようとする。 (書への関心・意欲・態度)</p> <p>○自ら作った川柳の句意に基づいて紙面構成を構想し、表現を工夫することができる。 (書表現の構想と工夫)</p> <p>○行書や仮名で学んだ技能を活かしながら、墨の表現効果を考えて表現することができる。 (創造的な書表現の技能)</p> <p>○友達の作品の表現効果を味わい、書の高さや美しさを感じ取っている。 (鑑賞の能力)</p>			
単元の 評価規準	書への関心・意欲・ 態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技 能	鑑賞の能力
	墨色と表現の関係に関心をもち、表現を高めようとしている。	自作の川柳の句意に基づいて紙面構成を構想し、表現を工夫している。	行書や仮名で学んだ技能を活かしながら、墨の表現効果を考えて表現している。	クラスメイトの作品の構成や、墨の表現効果を味わい、書の高さや美しさを感じ取っている。
題材(教材)	・『書道I』(東京書籍, 84~95頁), 『五體字類』(西東書房)ほか			
単元(教材) について	<p>(1)生徒観: これまでに楷書に調和した漢字仮名交じりの書を学んだ。好きな詩句を扇面に表現したり、また硬筆を用いて葉書に表現したりすることができている。しかしながら、漢字仮名交じりの書を含めた創作活動に対しては、苦手意識をもつ生徒が多いのが課題である。</p> <p>(2)教材観: 行書や仮名に調和した漢字仮名交じりの書を学ぶために、色紙に自作の川柳の句意に適した紙面構成を構想し、墨色を活かした表現をすることが本単元の目的である。</p> <p>(3)指導観: 漢字仮名交じりの書を含めた創作は、用具・用材、線質、字形、文字の大きさ、紙面構成、古典を活かす工夫など、多様な視点を融合させることによって初めて作者の自由自在な表現が可能となる。しかしながら、生徒がこれらすべてを一度に理解することは困難である。本年度は漢字仮名交じりの書の授業を数度、しかも段階的に行うことで、生徒の苦手意識を払拭し、生徒自身の表現能力の向上を目指している。生徒が主体的・意欲的に学習活動に参加できるように、まず、いくつかの紙面構成を提示し、生徒がこれまでに触れてこなかった青墨やメタリック墨を用いた。また、クラスメイトの作品を鑑賞する機会を設け、付箋を用いた批評活動を行うことで、生徒の表現意欲を高める工夫を行った。</p>			
指導計画 (学習計画)	主な学習活動		主な評価	
	<p>1~3時 自分で作った「恋」(A)・「水戸二高」(B)に関する川柳(宿題)を、字書を調べて字形を確認した上で、サンプルをもとに紙面構成を複数考える。</p> <p>4時 付箋による批評活動を行い、(A)・(B)の紙面構成を1つずつ決定する。</p> <p>5~6時 青墨やメタリック墨によって(A)・(B)を色紙に表現する。</p>	<p>・自ら作った川柳の句意に基づいて紙面構成を構想し、表現を工夫している。 (書表現の構想と工夫)</p> <p>・クラスメイトの作品の紙面構成の高さや美しさを感じ取っている。 (鑑賞の能力)</p> <p>・墨色と表現の関係に関心をもち、表現を高めようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</p> <p>・墨色の表現効果を考えて表現している。 (創造的な書表現の技能)</p>		

本 時 案 (第6時)

<p>本時の目標</p>	<p>○墨色と表現の関係に関心をもち、表現を高めようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</p> <p>○墨色の表現効果を考えて表現することができる。 (創造的な書表現の技能)</p>	
学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
<p>0 本時の授業の準備をする。(始業前)</p> <p>1 本時の学習内容を把握する。</p>	<p>○墨池に3種(金・青・紫)のメタリック墨を用意する。</p> <p>○本日の学習内容を、配布プリントで確認する。</p> <p>①インパクトを付けるところを遅く書き、潤筆にする。</p> <p>②運筆速度を速くして、渴筆を出す。</p> <p>③墨の濃度を調節する。</p> <p>④色味の配置を適切に表現する。</p>	
<p>「メタリック墨」を使い、自作の川柳を色紙に表現しよう。</p>		
<p>2 半紙にメタリック墨を用いて練習する。</p> <p>3 色紙にメタリック墨を用いて清書する。</p> <p>4 (A)(B) 2作品を机に出し、批評を行う。</p>	<p>○運筆の遅速の練習し、潤筆や渴筆の出し方を確認させる。</p> <p>○ラメ粉が沈殿しないように、常に墨をかき交ぜるように指導する。</p> <p>○色紙はあまり滲まないで、再度注意するように促す。</p> <p>○作品以外のものは机の上に集めたり、机の中に片付けるように指示する。</p> <p>○隣の人(A)(B) 2作品の中で優れている作品を選択し、その理由を付箋に簡便に書くように促す。また、時間に余裕のある生徒は他のクラスメイトにも同様の感想を書くように促す。</p> <p>○クラスメイトの中で優秀な作品を1点選択する。</p>	<p>○墨の表現効果を考えて表現している。 (創造的な書表現の技能)</p> <p>&lt;作品の分析&gt;</p> <p>—努力を要する生徒への手立て— 個別に潤筆や渴筆の出し方を指導して理解を促す。</p>
<p>5 ワークシートに自己評価を記入する。</p>	<p>○配布プリントに自己評価や感想を記入し、後片付けを行うように促す。</p>	<p>○墨色と表現の関係に関心をもち、表現を高めようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</p> <p>&lt;提出物の記述&gt;</p> <p>—努力を要する生徒への手立て— 自己評価や感想に対してコメントする。</p>

書Ⅰ 創作―色紙に自作の川柳を書こう②

「 年 」 「 組 」 「 番 氏名 」 「

評価項目

※評価は1（悪い）～5（良い）でつける

評価	自身の
評価	先生の

一 構成

① 連綿を一カ所入れることができたか		
② 落款（名前）の書き方は適切か		
③ 漢字の字形は適切か		
④ かなの字形は適切か		
⑤ 線の太さの変化をつけられたか		
⑥ なめらかな曲線を取り入れた		

二 墨色① 青墨

⑦ インパクトをつけるところが遅く書き、潤筆にすることができたか		
⑧ 運筆速度を速くしたり、墨を調節し、渴筆を出すことができたか		
⑨ 墨の濃度は適切か		

三 墨色② メタリック墨

⑩ インパクトをつけるところが遅く書き、潤筆にすることができたか		
⑪ 運筆速度を速くしたり、墨を調節し、渴筆を出すことができたか		
⑫ 墨の濃度は適切か		
⑬ 色味の配置は適切か		

○感想

--